

# 保健、医療、福祉関係者 懇談会

実施結果報告書

社会福祉法人 西東京市社会福祉協議会

# 目次

---

<b>I 実施概要</b> .....	<b>1</b>
<b>II 結果概要</b> .....	<b>3</b>
1. 事前アンケートにご記入いただいた内容一覧 .....	4
○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について .....	4
○テーマ2 相談・アウトリーチについて .....	5
○テーマ3 地域における交流・居場所について.....	8
○その他ご意見について.....	9
2. 地域における課題についての意見一覧【ワールドカフェ】 .....	12
○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について .....	12
○テーマ2 相談・アウトリーチについて .....	14
○テーマ3 地域における交流・居場所について.....	15
3. 課題の解決に向けた取り組みの検討【フィッシュボール】 .....	17
○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について .....	17
○テーマ2 相談・アウトリーチについて .....	18
○テーマ3 地域における交流・居場所について.....	19

# I 实施概要

---

(1)実施日	平成 30 年 1 月 29 日 (月)
(2)参加者数	21 名 (内社協職員 6 名)
(3)出席者 (区分)	<p>&lt;関係者&gt;  子ども家庭支援センター「のどか」、やぎさわ保育園、聖ヨゼフホーム、学び塾「猫の足あと」  ひばりが丘児童センター、西東京市高齢者センターきらら、栄町地域包括支援センター  田無町地域包括支援センター、エバグリーン田無、地域活動支援センターハーモニー  NPO 法人移動サポートひらけごま、就労支援センター 一歩、在宅療養連携支援センター「にしのわ」  教育委員会教育支援課、西東京中央総合病院</p> <p>&lt;社協&gt;  ほっとネットステーション担当、地域サポートりんく担当、ふれあいのまちづくり担当、生活サポート相談窓口担当、  権利擁護担当、在宅福祉サービス・ファミリー・サポート・センター担当</p>
(4)実施方法	<p>①事前アンケートにより課題を分類し、3つのテーマを設定</p> <p>テーマ1 生活に困窮している人への支援について</p> <p>テーマ2 相談・アウトリーチについて</p> <p>テーマ3 地域における交流・居場所について</p>
	<p>②ワールドカフェ、フィッシュボウル方式によるワークを実施</p> <p>「利用者・家族の問題で、気になる相談、課題や増えていると感じている相談、課題」について、上記テーマ別にワールドカフェ方式により意見を集約し、その意見をもとに「必要となるネットワーク、連携」、「住民に協力してもらいたいこと」、「社会福祉協議会に期待すること」についてフィッシュボウル方式により、さらに意見交換を行った。</p>

## II 結果概要

---

# 1. 事前アンケートにご記入いただいた内容一覧

## ○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・中学生	・塾に行っていない中学生に無料で学習支援を行っているが、途中で来なくなる子がいて、そうした子へはなんの手立てもない。		・地域の子について情報を共有できる大人や機関が必要。励ましたり、相談にのったりする人がいてほしい。	・学習支援に協力してくれる大学生とつないでほしい。
・就労希望者	・まったく解決が出来なかった案件ではないが、難しいものとして、高齢化や病状等の理由により雇用率にカウントされる週 20 時間未満の一般就労を希望される方の支援※障害開示により。	・雇用率に関係なく、障害をお持ちの方を雇用する事業所を創出、開拓。（合理的配慮を踏まえ）。	・雇用率に関係なく、障害をお持ちの方を雇用する事業所を創出、開拓。（合理的配慮を踏まえ）。	・雇用可能事業所の情報共有。
・ひきこもりやニートの当事者と家族等	・学校経験・就労経験などが不足しているひきこもり・ニートの当事者はすぐにアルバイトや正規就労などへはつながることが困難なため、緩やかに仕事を体験することができるような実習先が必要だと考えられる。	・地域にある個人商店などに、当事者の現状を理解してもらえる受け入れ先を探す。	・地域にある企業や個人商店などに、当事者の現状を見てもらいながら、仕事体験をさせてもらえる受け入れ先を探す。	・地域にある企業や個人商店などに、当事者の現状を理解してもらいながら仕事体験をさせてもらえる受け入れ先を探す。 ・受け入れ可能な実習先の集約や実習生の動向、実習の様子のフィードバックなどを行う。受け入れ先の方と実習生の交流の場を設定する。
・中学卒業後の青少年	・経済困難を抱える家庭の高校進学についての意見。			・利用可能な制度等についての情報提供や相談。
・親権者が不在となった中学卒業の青少年	・児童相談所が対応しない場合の生活相談。			・様々な社会資源等の情報提供や法的制度等の情報提供。
・生活困窮者(多重債務者・無収入・障害)	・専門の相談先、生活支援、就労支援。	・発見。 ・声掛け。 ・見守り。 ・簡単なサポート。 ・相談機関への情報提供。	・早期に相談でき、専門相談機関を紹介できる居場所の運営。	

## ○テーマ2 相談・アウトリーチについて

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・保護者・園児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内暴力の早期発見。</li> <li>・母子の安全の確保。</li> <li>・その後の生活の支え。</li> <li>・子どもの健全な発育、発達の支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り。</li> <li>・専門機関への通報。</li> </ul>		
・家庭内で子育てしている家庭（母・子）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てが辛いと感じる母親への支援・見守り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域へ誘い出す。</li> </ul>	
・発達障害を持つ子どもと保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの障害を受け止め、早い段階で療育につながっていくこと。</li> <li>・保護者のフォロー。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の正しい理解。</li> <li>・地域へ誘い出す。</li> </ul>	
・家族と暮らせない若者（入居者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護施設出身の子には生活上の様々な支援が必要。高校生、中学生と想定外の子も家族と暮らせない事情を抱えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親だけでなく、地域がともに子育てをする環境を取り戻したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることで、一部分でも関わってくれるボランティアのネットワークを作りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代がつながり、それぞれの課題解決に+する場を作ってほしい。</li> </ul>
・相談できる身寄りのない独居高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終活支援を受けたいが、どこの団体に相談していいかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気な時から自分の最後のことに関心をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終活に関する講演会への参加や、メディアから情報をとるなど、学びの機会と一緒に参加する、話題に取り上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終活等に関する学びの機会を市民に提供する。</li> <li>・事業として展開してほしい。（有償サービスとして、亡くなった後の手続きの様々な支援、社協なら安定した事業となること）</li> </ul>
・介護保険が必要になった親を持つ世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険を使ってサービスを利用したいとき、どうしたらよいかかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の窓口等で情報を集める。</li> <li>・市役所の窓口相談する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の職員や担当の市職員が中心となって、地域福祉についての講座、イベントを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協で実施するイベントや講座等で、5分程度時間をいただき、社協職員が介護保険について説明する。または、質問を受ける。</li> </ul>

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉に関心のある人、また何らかの形で役に立ちたいと思っている人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の困った人の役に立ちたいと思っているが、個人情報の壁があってどこに必要としている人がいるのか情報が入ってこない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援や老人についての見守り支援のシステムは社協にあるようですが、研修や資格等のハードルもあり、もう少し、身近で助け合いが出来る形があればよいと思う。（例えばフードバンクや子ども食堂、老人の小さい規模でのお茶会等）</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ハーモニーにつながらない人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンスペース。受け入れ体制。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント。</li> <li>見立て。</li> <li>フォローアップ。</li> <li>人材育成。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な居場所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援センターは市に1か所（精神）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント。</li> <li>見立て。</li> <li>フォローアップ。</li> <li>人材育成。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもりやニートの当事者と家族等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者が求めている情報（支援）が届いていない。そのため、ひきこもり等へ早期に対応する機会を逃し、長期化してしまうケースがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「こういうサービスがあるわよ」といった口コミを広げること、対象者のキャッチ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の方と地域で気になっている人の“うわさ”話をする機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記のような、市民と自然と話す機会をこれまでどおり持ち続けること。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関、支援提供者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要だと思われるケースだが、どうにも手を出せない市民に対し、それぞれの関係機関から、そういった支援が必要かを考え、準備をしておき、いざとなったときにすぐに動き出せるように。また、支援者らが「何もされていない」という気持ちに押しつぶされないよう、支援者側のフォロー。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関が定期的に顔を合わせ、情報を把握、共有できる場の設定。</li> </ul>

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・児童	・仕事をしている保護者に代わって、相談室に児童を送迎する。			・ファミリーサポート。
・公的な支援が必要な状態でも断る市民	・今はまだ大丈夫とって、包括や介護保険申請を嫌がる。同居人は心配しているが、説得できない。代わりに説得してほしいが、頼むと怒られる。	・今はまだ大丈夫とって、包括や介護保険申請を嫌がる。同居人は心配しているが、説得できない。代わりに説得してほしいが、頼むと怒られる。	・活動を支えるためのバックアップや支援、情報の提供等。	・活動を始められる支援、機会づくり。 ・活動が継続できる支援。 ・断る人に対し、関わりながら、制度への促しを上手に行う(関係機関と連携しながら)。
・一般市民	・排除の意識からの脱却。排除する対象とするのではなく、支援し、ともに支え合う関係づくりを目指す。	・排除する対象とするのではなく、支援し、ともに支え合う関係づくりを目指す。 ・可能な関わり方を探す。	・意識の改革を訴え、働きかける。	
・困りごとを抱える人	・お互いさまのまちづくり。助けてといえるまちづくり。SOSをキャッチして支援につなげる仕組みづくり。	・お互いさまの意識を持ち、ともに支えあう。 ・おせっかいな人になってみる。 ・SOS をキャッチできる感性を磨く。	・市民の思いに寄り添い、支援する。	
・親の能力や疾病により、子育て支援が必要な親、世代	・育児の手助け、気軽な相談先。	・発見。 ・声掛け。 ・簡単なサポート。 ・相談機関への情報提供。 ・虐待通報。	・先輩ママによる気軽な相談。 ・子育てサポート。 ・子育て世代の集う居場所づくり。 ・子ども食堂の運営。 ・子どもの預かり活動への協力。	
・加齢変化で生活に支障のある高齢者、地域とつながらない高齢者	・家事・片付けなどの手助け、でかける行先・居場所、人との接触、気軽な相談先。	・発見。 ・声掛け。 ・見守り。 ・簡単なサポート。 ・相談機関への情報提供。	・集う場、居場所づくり。 ・傾聴の場、気軽な相談の場づくり。 ・サロン活動の開所。 ・助け合い活動や家事支援活動への協力。	

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・周りや専門職から見て明らかに問題を抱えているのに、困っていることを認識できず、大丈夫と言い続ける市民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報が行き届かない、障害者のいる世帯の生活支援。</li> <li>・うつ傾向が疑われる状態でも専門機関ではなく一般市民との関わりも求める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の方々に遠巻きにでも見守っていただく。</li> <li>・挨拶や声かけなどで、身近な存在になっていただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な存在の近隣者からの情報をもらいながら、タイミングを見て介入する。</li> <li>・今までの情報をいただきながら一緒に見守りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SOS が出せない人、またはそのような人を抱えている家族への寄り添い支援の仕組み。</li> <li>・市民が支えられるような仕組みづくり（子育て等）。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・西東京市民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスを利用しない方で金銭管理の必要な方への支援。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアでFP を持っている人などの関わり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家計相談。</li> </ul>

### ○テーマ3 地域における交流・居場所について

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育て支援団体・活動グループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代は転入者が多く、孤立の防止が求められる。</li> <li>・民間団体やグループの活動や、利用ニーズのある保護者や児童へつなぐ手段が必要。</li> <li>・民間の活動情報は限界がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を市民に向けて発信。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用ニーズのある市民に情報が提供できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動団体の育成支援や、既存グループの把握とデータ化を推進。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校と公共施設利用者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの居場所・世代間交流の共生社会づくりができる場所が求められている。公共施設の共有スペースやロビーを利用している子どもが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利用ルールを学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体となって、安心できる場所や、活用方法を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と子どもと一緒に過ごせるようにつなぐ役割。</li> <li>・子どもが提案する活用方法を実現化するためのサポート。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子家庭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子自然体験等。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通手段としての車出し等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居の高齢者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつサロン等の事業に参加した後、「卒業後」の居場所。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン参加者（経験者）による自主的なサークル活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「卒業生」に対するフォローアップの企画、補助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォローアップへのサポート。</li> </ul>

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・ひきこもりの中高生	・市の事業として「スキップ教室」などがあるが、キャパシティが不足しており、居場所がない。	・場所づくり。（特に午前中）	・外へ連れ出し。 ・気兼ねすることなくいられる場所の整備。	・場所の確保。
・地域住民	・自治会等が減ってきており、住民どうしをつなぐ居場所が少ない。	・場所の提供。	・居場所づくり。	・協力者をつなぐ役割。
・若年性認知症の方	・介護保険のデイサービスには行きたくないがまたは対象外であり、状況、能力に応じた社会（活動）参加の機会や居場所が欲しい。	・場所づくり。（特に午前中）	・外へ連れ出し。 ・気兼ねすることなくいられる場所の整備。	・場所の確保。
・精神障害者・発達障害者等の児童・重症心身障害者・認知症	・地域における孤立化防止の対応、生活支援の拠点づくり。	・コミュニティづくり。参加していくことを広げていく。	・支援、ケアへの取り組み。	・サポート体制の構築。

## ○その他ご意見について

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・転居が難しい高齢者世帯、独居高齢者	・家屋環境が整わないことで、退院、退所ができない高齢者への対応。	・高齢化や心身の変化を予測した早期の住み替えなどの対応。	・住み替えの好事例の工夫、留意点など学習する機会をつくる。	・資金調達の工夫。 ・地域の企業を巻き込んだ住み替え対策の検討。
・介護者	・心と身体のリフレッシュ行事。（1泊2日程度の企画）。	・介護家庭（老人・児童）への働きかけ。	・ショートステイの受け入れ先等。（福祉施設も含め積極的受け入れ、1泊2日等の）	・コーディネート

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
・片付けられない人	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームヘルパーを導入する前の清掃</li> <li>ゴミ屋敷</li> <li>業者は高価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> <li>有料ボランティア（2,000円/時とか？）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民、ボランティア。</li> <li>有料ボランティア（2,000円/時とか？）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アセスメント。</li> <li>見立て。</li> <li>フォローアップ。</li> <li>人材育成。</li> </ul>
・一般市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>無関心からの脱却。自らが主となって、積極的に興味関心を持ち、具体的な動きに移すことができるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らが主となって、積極的に興味関心を持ち、具体的な動きに移すこと。</li> <li>できることからやる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の思いをともに共有し、支える。</li> </ul>	
・在宅療養高齢者・障がい児	<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔内に問題があるが、通院困難なため、歯科健診・診療を受けられない人への相談、健診・診療の提供。</li> </ul>			
・介護離職者	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を抱え込まざるをえない家族状況の中にある介護者の支援体制。企業等の介護支援体制との連携（ケアプラン）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務先の介護支援体制、福利厚生を知ろうとすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護を抱え込まないための準備。</li> <li>介護が始まる前に考えておくことを学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護が始まる前に活用できる情報や制度の普及。</li> </ul>
・社会資源につながっていない若者	<ul style="list-style-type: none"> <li>親が抱え込んできた障害や引きこもりの子の支援体制（SOSを出せる地域づくり）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に気になる世帯があったら、早めに連絡することが当たり前意識を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこに、どのタイミングで、どのようにつながるか、見守り方やSOSの出し方、つながり方を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社協会員のネットワーク整備。</li> <li>社協ならではのつながりの活用。</li> </ul>
・西東京市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>身寄りがいない、もしくは遠方にいる判断能力のある市民が入院に際して保証人になってくれる人がいない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>身元保証等のサービスの実施。</li> </ul>
・小学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後の居場所が必要な子に歩いていける範囲でたくさんの場を小学生は遠くまでなかなか通えない。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの居場所。地図の様なものができると良い。</li> </ul>

これまで解決できなかった福祉ニーズやその対象者		これまで解決できなかった福祉ニーズを発見・解決するためにできること		
対象者	ニーズ	市民自らができること	市民と一緒にできること	社協に期待すること
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はなバスのルートから外れているエリアについては、移動手段に困ることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要望をまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなコミュニティバスなどの資源の開発。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源となる人材の発掘。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ自分で買い物に行き続けたいと思う高齢者。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前まで買い物に行きたいが、行くのも大変になったし、大きな店での買い物はサポートが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の高齢者とあいさつからでよいので、顔見知りになっておく。さりげない見守りや声かけを心がける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物中、困っている、大変そうな高齢者がいたら、声を掛けてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協、包括とともに、商工会の商店とつながり、買物ボランティアの育成や活動支援、一休み場所づくりの推進など。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行困難者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度「車いす」→けやき号の利用、軽度の方にとって、バス停までが大変なので、お出かけもあきらめてしまい、閉じこもりの要因に。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行困難になったら、どのようなサービスがあるのか知ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運転ボランティアを増やす活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニデイ、サロンの参加者が歩行困難になっても継続して参加できるよう促す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行困難者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家から外への段差、老々介護でお手伝いの要望を聞くが、「けやき号」ではできない、NPOでもできないことがある。介護保険と別々のサービスを一体化して提供できるとよい。</li> </ul>			

## 2. 地域における課題についての意見一覧【ワールドカフェ】

※下線は「制度上のサービスで解決できない利用者・家族の問題」として、特に重点的に取り扱った項目

### ○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について

#### 生活の支援がない

- 年金を受け取れない人がいる
- 収入がなく介護サービスが受けられない
- 本人自身の生活力が低下、生活支援もない
- サポートを受けずに、生活が困窮している独居老人が多い。
- ドロップアウトするとなかなかリスタートできない
- ひきこもり・ニートの人に対して、緩やかに仕事を体験することができるような実習先が必要である

#### 本人に困窮の自覚がない

- 本人に困っている自覚がない
- 金銭管理ができない、本人はできていると思っている
- 「困る」の基準が不明確で対応に迷う
- 治療拒否をどこまで尊重すべきか
- 本人の意思決定能力の見立てが難しい
- 負の連鎖の家庭は困っている自覚がない、変えたいと思わない
- 生活を変えられない高齢者

#### 家庭への関わりが難しい（介入困難）

- 就労問題は関わり方が難しい
- 困窮者の自覚はあるが、一方で理想が高くて支援に応じない

#### 相談・支援先が難しい

- 多問題で部署が分かれている
- 制度に当てはまらない人の相談
- 困りごとを選ばないといけない
- とにかく相談できる場所が必要
- 関わっている人間がいないと発見が遅れる
- 生活保護になる前に相談ができる所を知らない人が多い
- 緊急課題を抱えているが、相談する人もおらず、相談しようとも思っていない。

#### 複合的な原因

- グレーゾーンの対象者の支援
- 外国籍のシングルの人や障がいのある子どもの問題など多問題のケース
- 若年の妊娠

#### 相談できる人が身近にいるかどうか

- 困りごとを隠す高齢者が多く、なかなか発見できない
- 高齢者世帯の場合は家庭だけで解決するのは無理という考えが浸透してきている

## 子どもの貧困

- 親権者が不在となった中学卒業の青少年の生活相談
- 遠足でお弁当を作ってもらえなかった子ども
- 家族を支えるために自立が阻害されている子ども
- 子どもの居場所がない
- 父子家庭の不登校のケース
- 家から学校に直接通えない子ども
- 子ども食堂があるが、食材などの費用が大変
- 医療ネグレクトの子どもが増えている
- 塾に行っていない中学生に無料で学習支援を行っているが、途中で来なくなる子がいる
- 経済困難を抱える家庭の高校進学が問題である
- 子どもがヘルプを出せない
- 子どもの保護はすぐできるが、親もとへ返す時が問題
- 高校生が家に勉強する場所がないという相談が増えている
- 高齢より若年の方が貧困が多いのではないか
- 子どもと分離した親の支援は行政等が行うがうまくいかない

## 就労支援

- 高齢化や病状等を理由に短時間の一般就労を希望される方の支援が難しい
- 生活困窮者（多重債務者・無収入・障害）の専門の相談先、生活支援、就労支援が必要である
- 加齢による就労の困難（障がい）
- 一般→福祉の就労への変更
- 特別支援学校以外の対象者への就労支援
- 親の精神疾患→寄り添うために離職する

## 予防・早期対応

- 生活パターンを見直したりして困窮を事前に防ぐことが必要
- フードバンクがあればいいが、身近にない
- 同じ金額で食事を作っても差がある
- 子育て中の方の生活支援を行うことが必要ではないか

## 長期支援の困難さ

- 長期間の支援の継続が困難

## 救いあげるためのネットワーク

- 経済的困窮だけではなく人とのつながりが大事
- 支援の道筋を示したい
- 支援の前の発見が第一で、その後声掛けしていく
- 所得の見える化があれば早期発見できるかもしれない
- 子ども食堂などの情報を届けたが、個人情報への壁があり伝えられない
- 通報ではなく、声掛けできる環境づくり
- 細やかな支援はセンターなどでは把握しきれない。近所の人が一番関わりが強いし、近所の人  
の支援が必要である

## ○テーマ2 相談・アウトリーチについて

### 複合化・複雑化している問題の受け入れ方

- 制度につながらない相談・問題
- 多世代で問題のある家族への支援
- 精神疾患を抱える子を持つ高齢者への支援
- 働いている障がい者と高齢者の親子の支援
- 親亡き後の子の支援が必要
- 障がい者に対する経済的な支援の仕組みが少ない
- 高齢の親と障がいのある子の問題のケースが増えている
- 親が精神疾患を抱える子の支援

### アウトリーチのタイミングが難しい

- 介護保険を拒否する方へのアウトリーチが必要となっている
- 早期介入のタイミングがつかめない
- アウトリーチの前のアセスメントも大切
- 困っている人のサインをキャッチできるようにする

### 困っている実態がわかりづらい

- なかなか届かないSOS
- 個人情報壁があって介入できない
- 虐待を早期にキャッチする
- キーパーソン不在の高齢者
- 精神疾患を抱える人とのきっかけが作りにくい
- 発信されない方をキャッチすることが大切
- 個人情報壁があってどこに支援を必要としている人がいるのか情報が入ってこない
- 福祉サービスを利用しない方で金銭管理の必要な方への支援が必要である

### 社会的背景・現状

- 西東京の学童保育の規模が拡大している
- 児童数の増加が激しい学校がある

### 子どもの行き場

- 家族と暮らせない若者（入居者）の生活上の様々な支援が必要である
- 自分を出せない子の問題がわかりづらい
- 過剰に反応してしまう子が不登校になっている傾向がある。
- 学校と地域の活動が連携して、問題のある子に支援を
- 子育てが辛いと感じる母親への支援・見守りが必要である
- 不登校、子どもの居場所
- 学校の役割、仕事が増えてしまっている

### 安心を与えることが大事

- 子どもにとっての大切な情報を入手することが必要

#### 地域とのつながりを持たない人とのつながり方

- 判断できない家族と暮らすことのできない高齢者の医療の支援
- 地域とのつながりが薄い障がい者世帯
- 地域の人に福祉サービスを知ってもらうことが大切
- 相談先を紹介してもつながらない
- 支援が必要な障がい者が窓口に来ない
- 介護保険を使ってサービスを利用したいとき、どうしたらよいかわからない

#### 自分が問題を抱えていると思っていない

- 親が問題と思っていないケースがある
- 今はまだ大丈夫といって、包括や介護保険申請を嫌がる人がいる

#### 連携の必要性

- 引きこもり家庭への訪問と併せて相談、受付の連携が大切
- アウトリーチに向けての連携、情報共有
- 関係者の連携、情報交換により虐待をキャッチする

#### これからのつながりづくり

- 要支援の子どもが近所に通える居場所づくり
- 自治会に替わるつながりづくり
- 介入の仕方に工夫が必要
- 学校・地域での保護者の関わりが少なくなっている

### ○テーマ3 地域における交流・居場所について

#### 気軽に集まるためのしかけ

- 何か一つでも共通項があると参加しやすい
- はつらつサロン等の事業に参加した後、「卒業後」の居場所が必要である
- 「ここにいていいんだよ」と思えるようなしかけが必要
- 「さあ行こう」と思うと気が重い。気軽に行けると長く続く

#### 世代間交流

- 高齢者のサロンに子どもが参加する形であればよい
- 高齢者と子どもが一緒にいる場が広がるとよい

#### つながりの必要性の再認識

- ケアマネの居場所もほしい。人と人との関わり方が昔と違ってきている
- 自治会等が減ってきており、住民どうしをつなぐ居場所が少ない
- コミュニケーション力がない
- 「つながりは面倒」と交流を減らしてきたが、つながりが改めて求められている

#### 困難を抱えている人へのアプローチ

- 不登校の人の居場所が市内にない
- 障がい児からの相談はNPO法人だからこそ受けやすい
- どこに問題をかかえている人がいるかわからない
- 「スキップ教室」などがあるが、キャパシティが不足しており、居場所がない

### 気軽に集まれる居場所

- 引きこもりの方の居場所
- 居場所へ誘うことも必要
- 誘う人がいるとよい
- 介護保険の対象者以外の方が集まれる場所
- サロンへ参加するのにハードルが高い

### 場所の確保が必要、既存施設の活用

- 場所の確保、それに伴うお金が必要
- 児童館を使う
- 公共施設があるが、そこに子どもの姿がない
- 市役所の食堂を利用できないか

### 子どもの居場所

- 子どもの居場所がないという相談が多い
- 問題のある子の家庭へのアプローチ方法がない
- 住民が自然な形で居場所づくり
- 子育て世代は転入者が多く、孤立の防止が求められる
- 子どもの居場所・世代間交流の共生社会づくりができる場所が求められている
- おしゃべりで子育ての話をしながらコミュニティを築けない
- 高齢者と子どもの居場所を共有できるのではないか
- 子育て中、家の中だけにいると母と子だけで疲れてしまう
- 居場所に専門の相談員が必要
- 母親が精神的な病気で一緒に暮らせない
- 事業に対象年齢の枠があるが、想定していなかった学年（低学年）がくる

### 情報の周知

- 子育て情報の周知。市報やホームページは意外に知られていない
- 地域子育て支援センターが5か所あるが知られていない

### 担い手の確保

- サロンの参加者が地域に役立つ活動をするのが重要
- 認知症の方が地域で活動したい場合ボランティアで支援が必要
- 同年代の子どもがボランティアで支援する仕組み
- 子ども達で雪かき隊を作った
- 施設が地域に対して「お互い様」という気持ちを持つ

### 3. 課題の解決に向けた取り組みの検討【フィッシュボール】

#### ○テーマ1 生活に困窮している人への支援や自立に向けた支援について

- 生活困窮で相談にくる人は困窮しきってからくる人が多い。支援が難しい状態になってから相談にくるのではなく、市民に制度を知っていただいて、市民から紹介していただく。少しずつ力を借りて早めの支援ができるとよい。
- ひきこもりの人も長年引きこもっていると支援が難しく、早めに支援につながるようになるとよい。ひきこもりの人同士が知り合い、就労につながるような居場所があるとよい。
- 生活レベルを落とせない人や複合的な課題を持っている人など様々や背景を抱えている人が増えており、支援する側も多様なネットワークももつ必要があり、普段からそのネットワークを持つことができるとうい。
- 生活習慣の低下から困窮に陥るケースが多く、早い段階で生活習慣を正すためのネットワークがあるとよい。専門の組織・職員が直接アプローチできることが望ましいが、ボランティアなど市民どうしでも支援ができるよう、人材を開発することができるとうい。
- プライドが高く、支援を受けたくない高齢者も多くおり、そういった方をいち早く発見し、サービスを使っていない人、末期の状態で見られる方等、周りに住んでいる方の協力をいかに得ることができるか。
- 発見した人がどこに報告・相談したらいいのかをもっと周知していくことができるとうい。
- サービスを受けられない、受けたくない、自覚がない人の困窮については、業務上自宅の中に入ることがある地域包括支援センターや介護サービス事業者などの現場の職員が気付くことが多い。生活困窮自立支援制度の周知や情報提供には取り組んでいるが、制度は日々新しいものになるので、事業所のタウンマネージャーや職員が制度をしっかりと把握できるよう支援してほしい。
- 年単位など長期的な当事者との関係づくりに取り組みながら支援につなげていくので、今の関係機関のつながりを深めて世帯を支援していくことが重要である。
- 制度を使っていない人のニーズを見つけ出して支援することは難しい。近くの人が気づいたときにどこにつながればいいのかをもっと周知していく。
- 近所の人など当事者に近い人が、普段のコミュニケーションから異変に気付くことが一番早い。相談先を紹介されても、敷居が高く、結果支援までつながらないこともある。例えば、家の前を雪かきしていない、いつも同じ服を着ているなどの気づきから早期の支援につながる。
- 生活困窮者支援にあたって必要な連携として、専門機関どうしの連携と市民との連携の視点がある。専門機関どうしの連携は、定期的な情報交換や勉強会など日頃からできることがもっとあると思う。また、市民との連携については、生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの視点から、市民ができる小さな支援を集めて、当事者への支援に結び付けられるかが重要である。
- 市民は自分のことで精一杯で無関心な人が多く、フードドライブや学習支援などから少しでも関心を持ってもらい、できる範囲での支援をしてもらえるようにしていきたい。
- 地域包括支援センターと民生委員との情報交換や連携にも取り組んでいるが、民生委員の定員を満たしていない地区もあり、民生委員に期待することをお願いできていない現状もある。市民の活用という視点では民生委員との連携は大事である。

## ○テーマ2 相談・アウトリーチについて

- 当事者と相談機関をつなぐ人の存在も非常に重要である。長い間相談に乗っていた人など、「この人が言ってくれるのなら…」ということで、相談に行く人もいる。
- 相談関係の成立には信頼関係が不可欠であるが、「この人に話したら大丈夫」というところが難しくなっている。
- 民生委員がつなぎ役になっていることが多かったが、今は個人情報との兼ね合いもあり、当事者の相談を受け止めて地域の中でサポートしていくことが難しい。
- 複合的な課題を抱えている人が多く、それぞれの機関が単独で動いて支援しても効果が表れにくい。制度はそれぞれあるが、垣根を越えて支援に取り組んでいく、一緒になってアプローチしていくことが重要である。
- 専門職の間にも相談をつなぐ人がいるとよい。連携の必要性は認識しているが、どのようにつながったらよいか、また、つながるタイミングがわからない。異変に気付いたとき、アクションを起こしたときに相談する先があるとよい。「つながったつもり」「つなげたつもり」になってしまうこと、情報を共有する際、危機感が伝わらずに温度差がでてしまわぬよう、状況を判断する人が必要である。
- 「仕掛ける」アウトリーチが望ましい。「こういうことができる」ではなく、実際にやってしまうことも大事である。声かけ運動やゴミ出しの支援など、学校区、行政区単位で取り組めることがある。
- 民生委員をサポートする存在がないので、民生委員を集めたお茶飲み会等ができるとういと思う。
- 児童虐待防止外部委員会等で関係機関が支援を必要とする児童や家庭について情報交換をしているが、その方法も学校区で差がある。情報を共有し、コミュニケーションをとりながら、おかしい点が見られたらすぐに対応できる関係性がある。
- 子ども食堂に支援が必要な子がきている。先に子ども食堂が気づいているが、子ども食堂以外の居場所を児童館に依頼がくる。学校とも連携しているので、児童委員も関りながら別々の機関がかかわっている等目をかけられる体制ができています。学校区ごとなど狭い地域で見られる人がたくさんいるとよい。
- 市直営の児童館の職員も連携を深めることができるとよい。
- 不登校の子ども親は、相談をしても思いを受け止めてもらえないこともあった。西東京市では親の会などの当事者団体が立ち上がり、過去に同じ経験をした保護者に話を聞いてもらったり、助言をもらうことで将来の見通しをつけることもできる。何かあったら、すぐに行政に頼るだけでなく、共感してもらえ当事者の居場所があるとよい。
- 子どもに関わる課題を抱えている人が多くいる。様々な相談窓口があるので、そこがうまくつながると助かる人が多くいる。
- 生活困窮などについては、当事者が支援を必要とする人間というレッテルを貼られることに抵抗があったり、その状況を自己責任にして「助けて」と言えない人が多くおり、これらの人を受け止めることが必要である。支援する人と支援される人に分けるのではなく、ともに生きていくことができるとよい。
- 病院に運ばれる人について、地域包括支援センターに相談すると、その人に関する情報を提供してくれることがある。また、入院をきっかけに当事者の深い部分に入り込み、利用するサービスの見直しや地域でのコミュニケーションを深めていくなどの支援につながることもある。病院として、外来での関わりから当事者の生活の不安の解消に関わることができるとよい。

### ○テーマ3 地域における交流・居場所について

- 今後、社会福祉法人の地域公益活動として関わるができる部分も出てくる。居場所のキャパシティがいっぱいであることについては、社会福祉法人の持っている資源の活用も期待できる。
- 居場所づくりに関して市民に関わってもらうためには、担い手の発掘・育成に取り組んでいくことが重要であり、地域福祉コーディネーターの役割として求められている。
- 地域に障がい者が一定数いるなかで、一か所に集まっている傾向がある。そのような中で、精神障がい者の地域支援センターは田無にあって保谷にはないなどの隙間があり、そこを埋めることが地域に求められる。また、地域に障がい者が一定数いることを地域で受け止めてもらえるようにすることや障がい者の居場所のコーディネート機能が社協に期待される。
- 障がい者雇用について、短時間でも働きたい人が多くなってきている。ハローワークなどでは障がい者求人と一般求人が分けられていることもあり、障がいを持っていても働ける場の情報を地域で提供してもらえるとよいと思う。
- 子どもも保護者も同じ場所で長い時間過ごすという意味合いでは、保育園は一つの地域と捉えることができる。その中で、地域子育て支援センターは地域に拓く視点では、重要な立場である。保護者が自分が経験したことを他の親に伝えることで、子育てに自身を持ち、つながりが生まれる。
- 西東京市は様々なサロン居場所が市内にある。運営側や参加者は試行錯誤しているが、誘っても来ない人がどうしてもいる。そのような人に対しては専門職がサロンにつなぐ役割を担ってほしい。
- 体操教室、健康づくりなど興味のあるテーマは人が多く集まる。テーマを工夫して参加を呼びかけているが、資格がある人の話を聞くことができると、住民も何をやろうか前向きに考えるので、そこに対する支援があるとよい。
- 移動に関する行政サービスの情報が各課ごとにバラバラに発信されており、それらをまとめた「お出かけガイドブック」を作成したら反響があった。
- お出かけカフェに参加する人が買い物を頼まれるなど、事業が認識され、かつ買い物をお願いすることができるような関係性が出来ている地域もあり、今後の地域の連携性の可能性を感じた
- 活動している人が徒歩で参加しているが、歩けなくなったときに、どうやって支え合うかを話合える関係性を考えていくことが必要である。
- とじこもり防止の事業をしているが、参加者の卒業後の居場所が少ない。卒業後の居場所をつくることもだが、そこを維持することも重要である。そのためには、多くの市民の活動への参加の促進と活動者の育成が大事である。
- 子ども食堂など、テーマが決まっているところはつながりができているが、子ども関係もつながりが薄い面がみられる。社協としても力を入れたいし、関係機関の連携を深めていきたい。